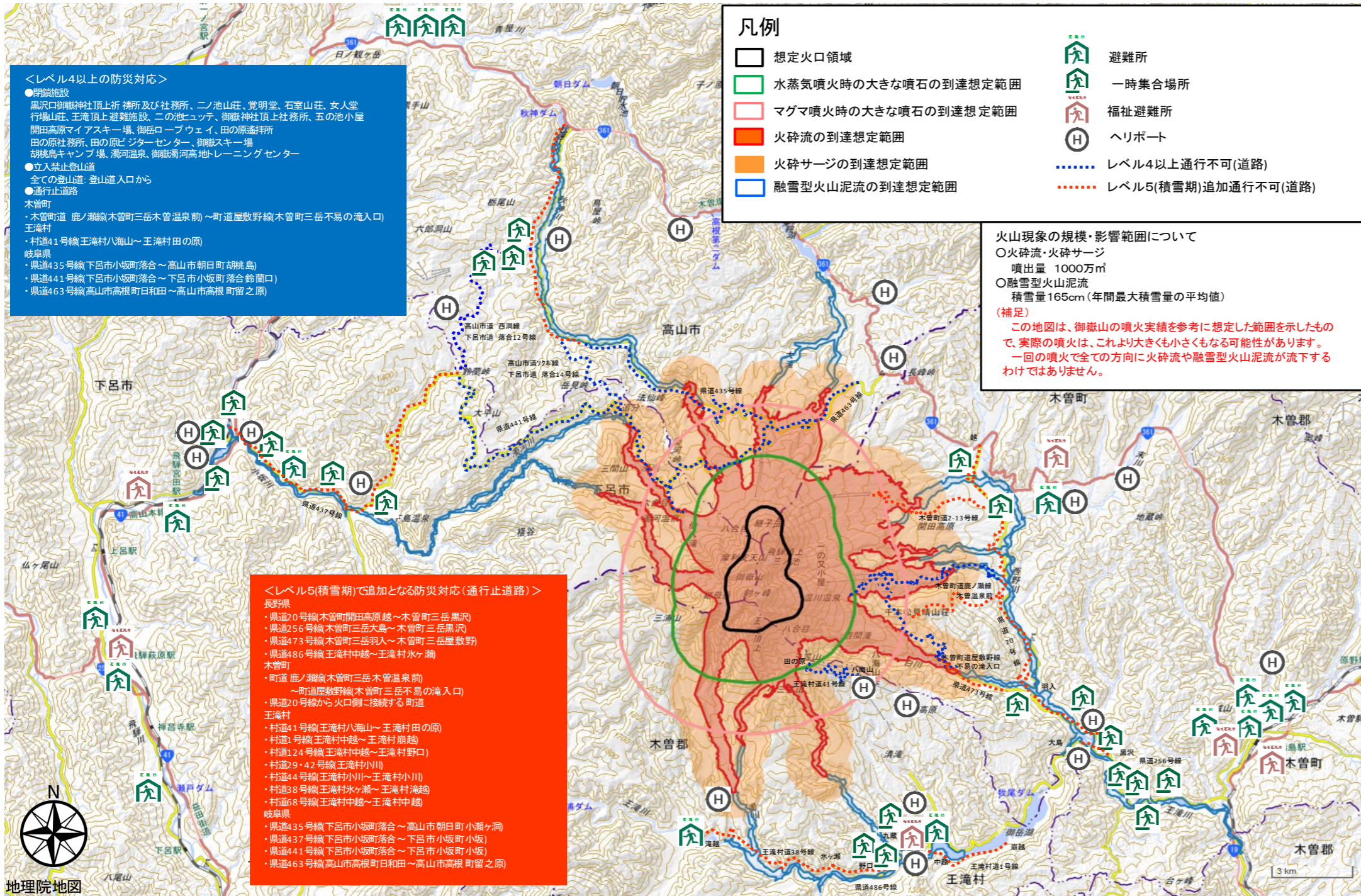


御嶽山火山防災マップ (令和7年12月1日現在)

【噴火警戒レベル4・5】



噴火に備えて

○御嶽山は活火山です。
 概ね過去1万年以内に噴火した火山および現在活発な噴気活動のある火山を「活火山」と定義しています。
 御嶽山では、1979(昭和54)年噴火以前の歴史記録に残る噴火は発見されていませんが、山頂南西の地獄谷における噴気活動は、最近数百年間は継続しています。
 1979年の剣ヶ峰の南側で水蒸気噴火が発生して以降、1991年、2007年にもごく小規模の水蒸気噴火が発生し、2014年9月27日に水蒸気噴火が発生しました。

○御嶽山の活動状況をチェックしましょう。
 御嶽山等の活火山には火山活動の状況を噴火時等の危険範囲や避難等の必要に応じて5段階(レベル1～5)に区分した噴火警戒レベルが導入されています。御嶽山に入山する際にはレベルの段階に関わらず、気象庁等からの情報に常に注意しましょう。

<噴火警戒レベル>

予報警戒	対象範囲	噴火警戒レベルとキーワード	火山活動時の状況	住民等の行動及び登山者・入山者への対応
噴火警戒	居住地域及びそれより火口側	5 避難	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。
		4 高齢者等避難	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まってきている)。	警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備等が必要。
火口周辺警戒	近火口から居住地域	3 入山規制	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。状況に応じて要配慮者の避難準備等。登山禁止・入山規制等、危険な地域への立入規制等。
	火口周辺	2 火口周辺規制	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。火口周辺への立入規制等。
噴火予報	火口内等	1 活火山であることに留意	火山活動は静穏。火山活動の状況によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	状況に応じて火口内への立入規制等。

○立入禁止や避難に関する情報に従ってください。
 御嶽山の火山活動が活発化した際は、噴火警戒レベルに応じて、市町村では立入を禁止する区域を設定したり、避難に関する情報を出しますので、その内容に従ってください。
 ・レベル1: 状況に応じて、立入を禁止する区域の設定
 ・レベル2、3: 立入を禁止する区域の設定
 ・レベル4: 高齢者等避難の発令
 ・レベル5: 避難指示の発令

お願い
 ・登山計画書(登山届)は必ず提出しましょう。
 ・入山前には、噴火警戒レベルを市役所、町村役場、及び気象庁ホームページなどで確認しましょう。

凡例に示す火山現象



噴石
 噴火に伴って、火口から吹き飛ばされる固形物で、時には、火口から数km程度まで飛散することがあります。大きさにより、風の影響の程度が違い飛散範囲が大きく異なることから、気象庁では、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」と「風に流されて降る小さな噴石」に区別しています。



火砕流
 火山灰や岩塊、火山ガスや水蒸気などが一体となって急速に山体を流下する現象です。時速数十kmから数百kmで流れることが多く、温度は数百度にも達します。

火砕サージ
 火砕流の先端や周辺では、熱い空気や火山ガス等の気体と、火山灰等が混じって高温・高速の流れとなります。密度が小さく、地形の影響を受けにくいので、火砕流の本体よりも遠方まで到達します。

融雪型火山泥流
 雪が山頂付近に積もっている時期に噴火に伴い高温の火砕流などが発生すると、その熱により雪が融け、土砂、火山灰等と一緒に斜面を高速で流れ下る現象です。

火砕流、火砕サージ(2000年 三宅島)

噴石(1983年 三宅島)